

# 寄生虫駆除と下痢対策で 子牛はもっと大きく育つ!!

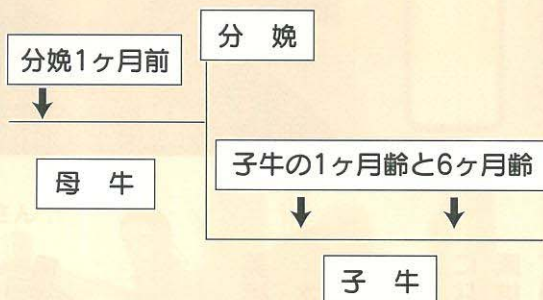


今回は、駆虫(アイボメクトピカル投与)により子牛の生産性を向上させる。つまり、母体内の胎児の発育を促し、生まれた子牛が下痢をせず正常な発育の促進について述べたいと思います。

延岡家畜診療所 獣医師 平田 逸雄

## アイボメクトピカル(IVMT)を用いた 駆虫プログラム

1. 全頭一斉投与
2. 母牛の分娩前、子牛の1ヶ月齢と6ヶ月齢



## アイボメクトピカル(IVMT)を用いた 駆虫プログラム

1. 全頭一斉投与  
環境浄化 内部外部の寄生虫を一斉駆除  
群全体の食欲、健康状態の回復  
遅れを取り戻す
2. 母牛の分娩前投与  
母牛 空胎日数の短縮、初乳調整改善  
消化管内線虫の子牛への感染防御  
(特に、乳頭糞線虫、クーペリア)  
子牛の下痢対策(コクシ性の下痢は殆どなくなる)
3. 子牛の1ヶ月齢、6ヶ月齢時に投与  
子牛、若牛の正常発育促進

## 鏡山牧場での試験結果 年度別生時体重(kg)

年度	雄の平均	雌の平均
2001	31.1	30.3
2002	31.7	30.0
2003	32.9	28.2
2004	31.3	30.2
2005	31.7	28.7
01~05の平均	31.7	29.5

2005年の12月駆虫プログラム開始

**2006 34.2 31.8**

過去5年間と比較して06年は雄で2.5kg、雌で2.3kgと生時体重増大

## アイボメクトピカル(IVMT)を用いた 駆虫プログラム

- ◎プログラムの中で、特に重要→分娩前の駆虫
- 生時体重を大きくする
- 初乳成分を改善する
- 子牛の下痢を大幅に改善する
- 特に、コクシ性の下痢を大幅に改善する

内部外部寄生虫を駆除、コクシに対する局所免疫獲得

初乳成分改善による子牛の抵抗力増強  
全て分娩前の駆虫による副産物です

鏡山牧場の試験でも分かるように、確実に子牛は大きくなっています。  
みなさんも駆虫を実施して、大きく健康な子牛の生産を目指しましょう!!